

# 日本発達障害支援システム学会 2017年度 研究大会・研究セミナー

= 発表論文集 =

= 大会テーマ =

## 国際的動向からみた 我が国の発達障害者支援を考える

●平成 29 年 12 月 10 日 (日) 12:00~17:00

●東京学芸大学 小金井キャンパス

東京都小金井市貫井北町 4-1-1

主催:日本発達障害支援システム学会

2017 年研究セミナー・研究大会実行委員会



# ご挨拶

## メインテーマ

### 「国際的動向からみた我が国の発達障害者支援を考える」

日本発達障害支援システム学会第16回（2017年度）研究大会・研究セミナーを、「国際的動向からみた我が国の発達障害者支援を考える」というテーマの下、2017年12月10日（日）に、東京学芸大学を会場にお借りして開催する運びとなりました。

近年、A I（Artificial Intelligence）、いわゆる人工知能の話題をニュースやネット上でよく見かけます。教育の分野では、I C T（情報通信技術）を活用した教育に関する実践が行われています。また介護の分野でも、介護ロボットの活用が言われるようになりました。このように新しい技術が、急速に発達し、そして現場で活用されるようになってきました。社会がものすごいスピードで変化していることを実感せざるを得ません。ところが、日ごろ現場に携わっていると、身の回りで生じることで手一杯となり、なかなか社会の変化までは気が回らないものです。そこで、今大会では、社会の変化を国際的な視点と、I C Tという視点から見つめなおし、私たちが日ごろ行っている教育・支援は、どのような位置にあるのだろうか、今後求められるものは何なのだろうか、といったことについて、参加してくださる皆様と共有できたらと考えています。そのため、東北大学の爲川雄二先生に『I C Tで拓く未来の知的・発達障害児支援』というテーマで教育講演をお願いしました。また、国際的な動向について、実行委員長の伊藤からお話をさせていただこうと企画いたしました。

例年通り、口頭発表・ポスター発表では、皆様の日ごろの成果をぜひ発表していただければと考えております。教育・支援の成果を埋もれさせてしまうことなく、皆様の実践について、参加される皆様と共有させてください。また、当日ご参加くださる皆様にも、ぜひ活発な討論をお願いしたく存じます。

体調を崩しやすい時期ではありますが、当日、会場でお会いできることを心待ちにし、大勢の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

2017年12月

日本発達障害支援システム学会

第16回研究セミナー／研究大会準備委員会

実行委員長 伊藤 浩

## 会場へのご案内

東京学芸大学 小金井キャンパス

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

### ■交通案内

#### (1) JR 武蔵小金井駅・北口より (徒歩の場合は約 20 分)

##### 【京王バス】

[5 番バス停] 「小平団地」行に乗車, 約 10 分. 「学芸大正門」下車, 徒歩約 3 分

[6 番バス停] 「中大循環」に乗車, 約 10 分. 「学芸大東門」下車

(日曜日は東門が閉鎖され, 入構できません)

#### (2) JR 国分寺駅北口より

##### 【銀河鉄道バス】

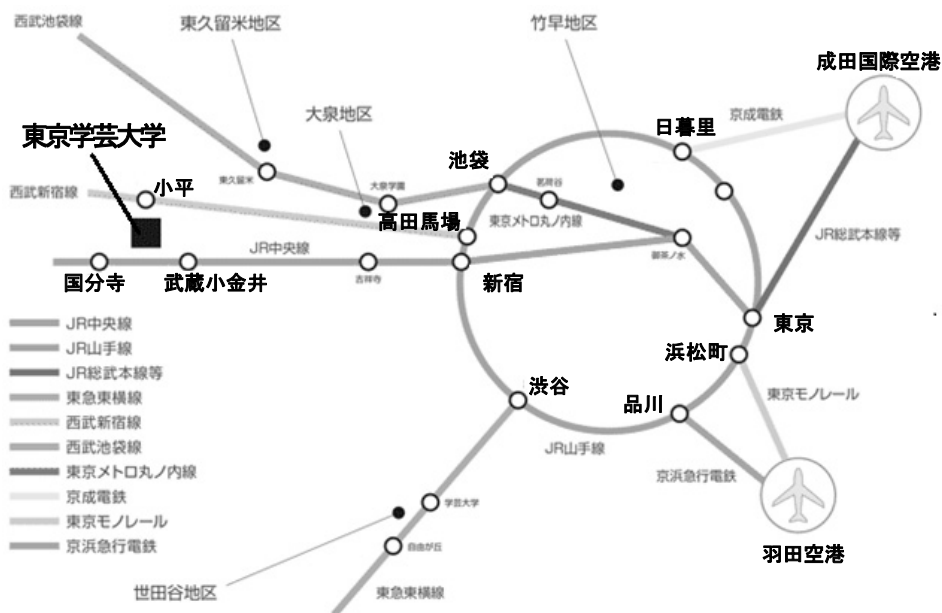
「国分寺駅入口」より「小平駅南口」行に乗車, 約 10 分. 「学芸大学」下車

(日曜日は北門が閉鎖され, 入構できません)

##### 【徒歩】約 20 分

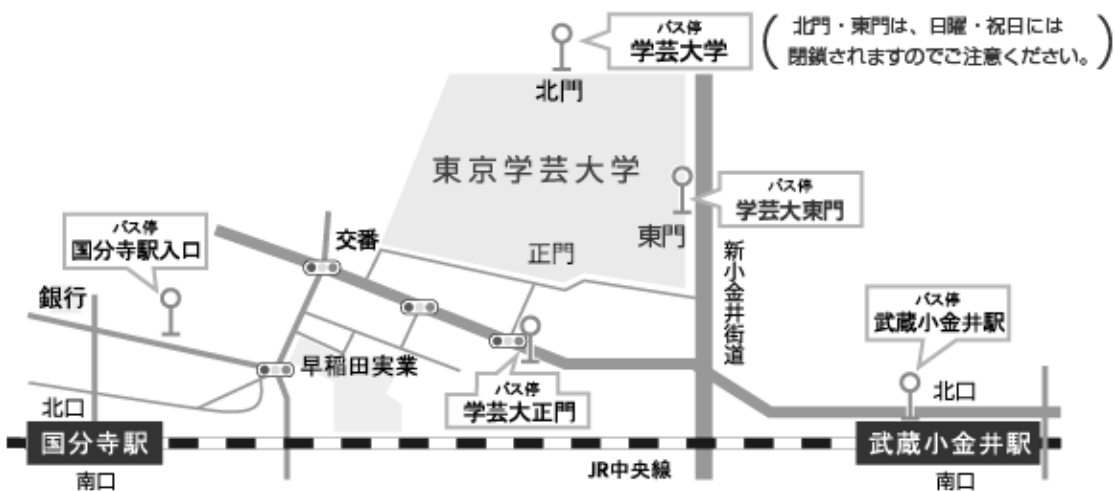
(JR 国分寺駅北口 → 早稲田実業学校 → 連雀通り / 小金井市保健センター前)

■最寄駅へのアクセス

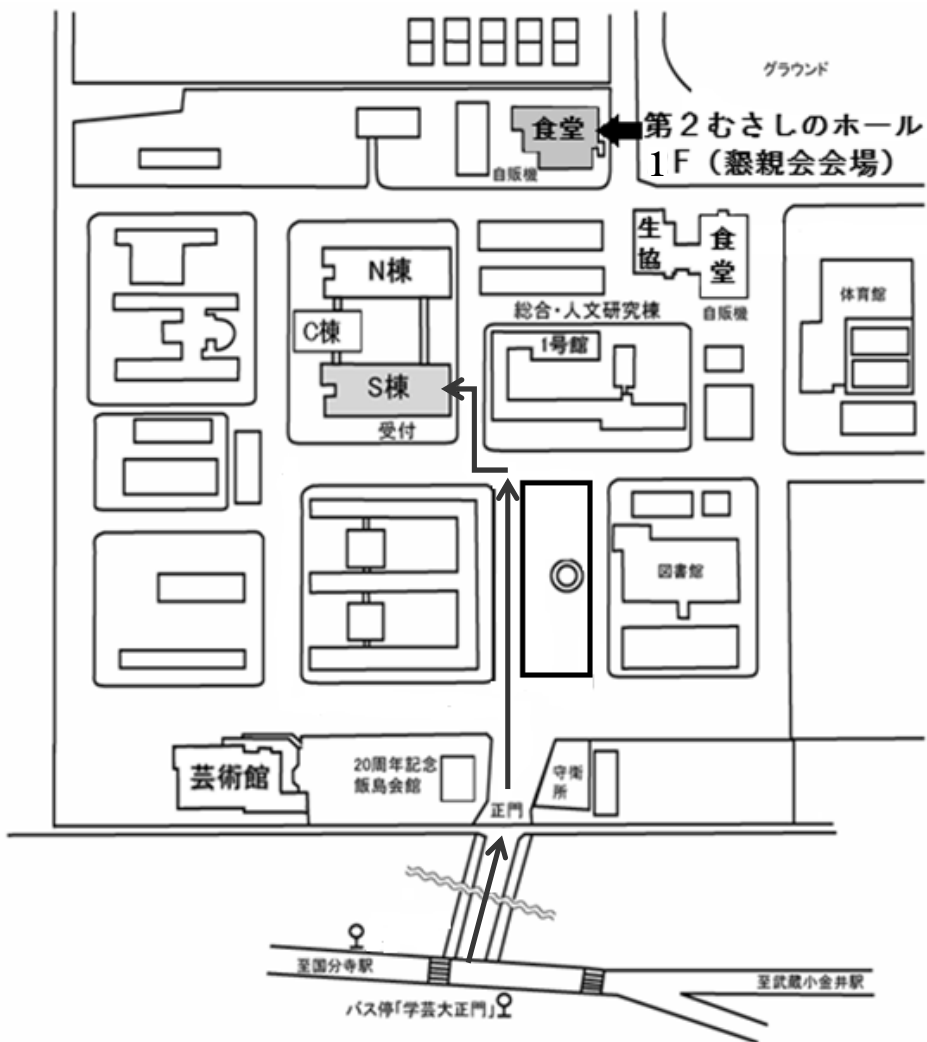


※東急東横線「学芸大学」駅ではございませんのでご注意ください。

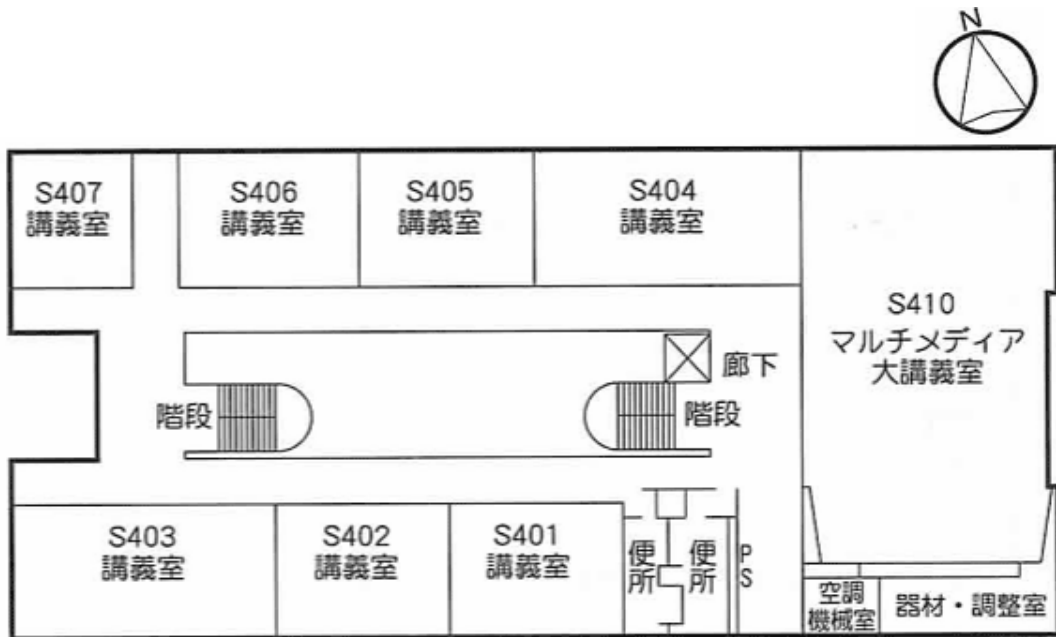
■最寄駅からのアクセス



## 構内案内【東京学芸大学 小金井キャンパス】



## 会場配置図



## 会場案内

### 南講義棟 (S棟) 4階

- ・受付 (S410 教室前) 【12:00～】
- ・教育講演 I (S410 教室) 【12:40～13:40】
- ・教育講演 II (S410 教室) 【13:50～14:50】
- ・各種分科会 (S403, S404, S405, S406, S410 教室) 【15:00～17:00】
- ・ポスター発表 (S401 教室) 【掲示 15:00～17:00 ; 在席 16:00～17:00】

### 生協 : 第2むさしのホール (1階)

- ・懇親会 【17:30～19:00】

# 参加者へのご案内

## I 受付

1. 大会期間中は受付でお渡しする参加章（氏名・所属を記入したもの）をお付けください。  
参加章は大会参加費の受領証を兼ねています。

2. 受付場所は教育講演会場（南講義棟<S棟>4階 S410教室）前です。  
受付間は12:00からです。

3. 参加費等は以下の通りです。

参加費：事前申込の場合 3,000円(11/28まで)

当日参加の場合 3,500円

(いずれの参加費にも論文集代が含まれます。論文集は当日受付でお渡します。)

発表費：1演題あたり 1,000円

懇親会参加費：事前申込の場合 3,000円(11/28まで)

当日申込の場合 4,000円

※事前申込の方は予め指定先にお振込み下さい  
(12/1まで)

※当日参加の方は受付でお支払いください。

	事前申込受付 (11/28まで)	当日参加
参加費	3,000円	3,500円
発表費	1,000円	—
懇親会費	3,000円	4,000円

↓ ↓  
12/1までに 当日受付で  
お振込 お支払

## II 会場関係

### 1. 喫煙

東京学芸大学の構内では分煙措置を実施しております。

喫煙は建物外の喫煙指定場所をお願いします。

### 2. 駐車場

駐車スペースは限られておりますので、お車でのご越しはご遠慮ください。

## III 懇親会

各分科会・ポスター発表終了後の17:30から生協（第2むさしのホール1階）にて行います。懇親会は当日も参加受付をしますが、人数に限りがありますので、できるだけ事前に お申込みください。

参加費は3,000円です（当日参加の場合4,000円になります）。



#### IV 連絡先

会期前，会期中ともに，大会準備委員会（実施本部）への連絡は下記まで，電子メールまたはFAX(会期中を除く)でお願いします．実施本部では，常にメールチェックをおこないます．

日本発達障害支援システム学会 2017 年度大会準備委員会

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

東京学芸大学教育実践研究支援センター内

FAX 042-329-7678

電子メール [jasssdd@u-gakugei.ac.jp](mailto:jasssdd@u-gakugei.ac.jp)

# 研究発表者へのご案内

## 【口頭発表】

### 1. 発表時間

- 1) 発表時間は1発表につき15分で、質疑応答の時間3分が含まれます。
- 2) ご自身の発表時間以外は、他の分科会場やポスター会場にいらっしゃっても構いません。但し、学会場から出てしまうことはご遠慮下さい。終了時刻の17:00まではご参加頂くことが義務づけられます。
- 3) 進行係が以下のように時間経過をお知らせします。

発表開始後10分：1鈴

12分：2鈴(発表終了)

15分：3鈴(質疑応答終了・交替)

### 2. 発表用機器

発表にパソコンを使用する方は、発表データを USB 接続フラッシュメモリに保存し、セッション開始前までに会場にお越し下さい。パソコンは、Windows 7 (パワーポイント 2010) を用意いたします。なお、Macintosh 版データや動画などが含まれるデータは、映像に支障をきたす場合がありますので、パソコンをご持参下さい。

(プロジェクタとの接続には、標準的なミニ D-SUB15 端子 (アナログ) を使用します)。

### 3. 座長の方へ

- 1) 座長の方は担当セッションの司会・進行をお願い致します。特に制限時間を厳守するようにお願い致します。
- 2) 各セッションに2名の座長をお願いしています。欠席の場合には新たに座長を決定しますので、前日までに E-mail にて大会準備委員会に必ずご連絡ください。

### 4. 質疑・討論について

質疑や意見を述べる際には、はじめに所属・氏名を明らかにしてください。また、30秒以内に簡潔にお願いします。その他、座長の指示に従って、セッションの進行に支障がないようにしてください。

### 5. その他

- 1) 座長及び発表者は、セッション開始5分前までに当該分科会場に在席してください。
- 2) 研究発表の資料は発表論文集をあてるのが原則ですが、補足資料の配布が必要な場合には、事前に発表者が必要部数を用意し、各会場の資料配布台に置いてください。

### 【ポスター発表】

1. 発表者は、発表時間中ポスターを掲示すると同時に指定された時間出席し、参加者と質疑応答することにより、正式発表とみなされます。
2. 発表者は、総合受付にて発表受付を済ませ、発表開始5分前までにポスターの掲示を完了してください。
3. 掲示時間は15:00～17:00、在席責任時間は16:00～17:00です。ポスターは壁またはパーテーションに掲示してください。
4. ポスター掲示範囲は横幅80cm×縦150cm以内が適当です。ポスターの最上部には、発表題目(フォントサイズ目安:72ポイント)、発表者氏名(筆頭発表者に○を付ける)、及び所属を明示してください。本文は全紙、または何枚かに分けて貼る等の方法で掲示してください。文字の大きさや図、表の作成には特に注意してください。混み入った図や表の使用を避け、2m離れたところから全体を読めるようにしてください。
5. 掲示用のセロハンテープ・押しピン等は会場内に用意してあります。
6. 当日資料を配布される方は、各自で必要部数を用意し、配布してください。個人情報との関係で、資料回収を必要とする場合は、発表者が責任をもって回収、処分してください。
7. 発表時間が終了したら、直ちにポスターを撤去してください。

# 大会スケジュール

12月10日(日)

会場 S棟4階	S410教室	S404教室	S405教室	S406教室	S403教室	S401教室
12:00	受付開始(会場前)					
12:30	開会挨拶					
12:40						
	<b>教育講演 I</b> <b>講師 伊藤 浩</b> (社会福祉法人幸会 理事長)					
13:40						
13:50	<b>記念講演 II</b> <b>講師 爲川 雄二</b> (東北大学大学院 教育情報学研究部 助教)					
14:50						
15:00	第1分科会 就労支援 領域	第2分科会 コミュニケーション 支援領域	第3分科会 学習支援 領域	第4分科会 早期発達支援 領域	第5分科会 支援システム 領域	ポスター発表 分科会 掲示: 15:00~17:00 発表者在席: 16:00~17:00
17:00						
17:30	懇親会 (生協:第2むさしのホール)					
19:00						

## プログラム案内

＝第1部＝（会場：南講義棟：S棟 4階 S410教室）

**教育講演 I** 12:40～13:40

『重度の知的障害者への支援を再考する  
－国際学会と国内学会との研究発表の比較を通して－』

### 【講師】

伊藤 浩（社会福祉法人幸会 理事長）

### 【講師プロフィール】

神奈川県出身。大学卒業後、知的障害者の支援に携わる。大学院に進学し、知的障害者のADL（日常生活動作）と認知機能との関係について研究。その後、支援員に対する研修の講師や、支援のアドバイザーをする一方、ダウン症候群の急激退行についての研究を続けている。

### 【研究発表等のピックアップ】

- 2016年 「ダウン症候群の退行により発現する症状と疾患との関連性：精神疾患、身体疾患、認知症および急激退行による症状の差異に関する分析」  
(日本発達障害学会研究大会発表論文集)
  - 2015年 「学齢期ダウン症児における認知機能の特性に関する分析：「模倣によるひもとおし」課題による注意機能の特性の分析」  
(日本発達障害学会研究大会発表論文集)
  - 2014年 「ダウン症候群の急激退行に関する相談の実態に関する研究：  
全国相談支援事業者への調査結果の分析」  
(日本発達障害学会研究大会発表論文集)
- etc.

司会：菅野 敦（東京学芸大学教育実践研究支援センター 教授）

## 教育講演Ⅱ

13:50～14:50

### 『ICTで拓く未来の知的・発達障害児支援』

#### 【講師】

爲川 雄二（東北大学大学院教育情報学研究部 助教）

#### 【講師プロフィール】

1996年東京学芸大学大学院修士課程修了，1999年東京大学大学院医学博士課程単位取得退学後，東京学芸大学特殊教育研究施設技術補佐員（文部科学省研究支援推進員制度）。2002年中国学園大学専任講師を経て，2003年より現職。2011年東北大学で博士号（教育情報学）取得。

障害児者およびその支援者を対象に，情報通信技術（ICT）を活用した支援について学際的な見地から幅広く研究。日本発達障害支援システム学会（理事・ウェブサイト管理運営），日本発達障害学会（評議員），日本聴覚言語障害学会（理事），日本特殊教育学会などに所属。

#### 【主な著書（いずれも分担執筆）】

- 2016年 『発達障害研究と実践のための医学診断／福祉サービス  
／特別支援教育／就労支援』（福村出版）
- 2013年 『改訂新版 障害児者の理解と教育・支援 特別支援教育／  
障害者支援のガイド』（金子書房）
- 2011年 『高度情報化時代の「学び」と教育』（東北大学出版会）  
etc.

#### 【主な社会活動】

- 2017年 「ICTを用いた指導・支援 —インターネットやゲームとの  
付き合い方も含めて」  
(公益社団法人 発達協会・実践セミナー)
- 2016年 「特別支援教育におけるICTの活用 ～タブレット端末を中心に～」  
(宮城教育大学附属特別支援教育総合研究センター  
2015年度特別支援教育フォーラム)  
etc.

司会：霜田 浩信（群馬大学教育学部 教授）

## ＝第2部＝

### 第1分科会 ＝就労支援領域＝(S410 教室)

座長：霜田浩信(群馬大学)・尾高邦生(東京学芸大学附属特別支援学校)

- 1-1 『就労支援における自己理解の支援行動に関する研究』  
前原和明(障害者職業総合センター)・縄岡好晴(千葉県発達障害者支援センター)  
八重田淳(筑波大学)
- 1-2 『学校卒業時の企業就労への移行期における学校と就労支援機関の連携の試み』  
山崎達彦(東京都立あきる野学園)・眞宮智子, 飯坂良樹, 飯塚礼子  
(NPO 法人秋川流域生活支援ネットワーク あきる野市障がい者就労・生活支援センターあすく)
- 1-3 『作業における「目標表」の有効性』  
横川拓也(社会福祉法人 武蔵野千川福祉会)
- 1-4 『賃金アップと働く力の向上に向けた実践報告』  
高橋勝茂(特定非営利活動法人 出愛いの里福祉会)
- 1-5 『後見的支援制度について』  
加藤昭和(社会福祉法人 県央福祉会 みどりのこかげ)
- 1-6 『安定した生活を送るための支援』  
荒井真, 佐々木智則, 野口愛, 玉手義政, 横田愛梨(社会福祉法人 武蔵野千川福祉会)
- 1-7 『開所20年を経過した通所施設における活動再編と職員育成の考察』  
斗舛もも子, 佐々木紀彦, 半田進二, 大木修, 久喜由貴子, 石黒晴樹, 藤木麗音,  
小林倫(社会福祉法人 湘南の風 もやい)

### 第2分科会 ＝コミュニケーション支援領域＝(S404 教室)

座長：小島道生(筑波大学)・林安紀子(東京学芸大学)

- 2-1 『早期言語発達における個人差に関する研究』  
丹野萌子(東京学芸大学大学院)・林安紀子(東京学芸大学)
- 2-2 『特別な支援を要する児童に向けた自立・援助要請システムの開発』  
杉岡千宏(東京学芸大学大学院)・三浦巧也(東京農工大学)
- 2-3 『ダウン症児・者のライフステージごとの対人関係における困難に関する文献的検討』  
金野楓子(東京学芸大学教育学部)・菅野敦(東京学芸大学)
- 2-4 『成人期知的障害者における重要な他者への意識に関する調査』  
李受眞(東京学芸大学大学院)・小島道生(筑波大学)・  
春日井宏彰, 前川涼(社会福祉法人 和枝福祉会)

- 2-5 『自閉症スペクトラム障害者の対人関係能力向上の支援実践』  
山口美範, 伊藤浩(社会福祉法人 幸会)
- 2-6 『特例子会社における知的障がい者の態度育成に関する研究』  
小笠原拓, 岡本孝伸(株式会社ドコモ・プラスハーティ)・菅野敦(東京学芸大学)

### 第3分科会 =学習支援領域=(S405 教室)

座長：渡邊貴裕(順天堂大学)・熊谷亮(福岡教育大学)

- 3-1 『ファシリテーションを活用した授業研究会と授業構成の検討』  
本莊建史, 金澤南, 加藤哲雄, 渡邊麻衣, 高鶴ゆら, 山根由香理, 前出佐希子,  
井上美保(東京都立調布特別支援学校)・齊藤宇開(たすく株式会社)
- 3-2 『学びに向かう力を育てる授業改善』  
伊藤佳子, 栗本みゆき, 吉池久, 茂木裕之(東京都立南大沢学園)・  
菅野敦(東京学芸大学)
- 3-3 『高校における「授業UD化シート」を活用した授業改善』  
戸部孝綱(東京都立園芸高等学校)・諏訪肇(東京都中部学校経営支援センター)
- 3-4 『知的障害特別支援学校における体育の授業分析に関する研究』  
永田悠祐(順天堂大学大学院)・渡邊貴裕(順天堂大学)
- 3-5 『発達障害のある生徒に対する書字指導』  
阿部敦子(東京都立青峰学園)・河野文子(筑波大学附属桐が丘特別支援学校),  
諏訪肇(東京都中部学校経営支援センター)
- 3-6 『中学部での作業学習の検討』  
昼間友彦, 常松浩三郎, 井上美保(東京都立調布特別支援学校)・菅野敦(東京学芸大学)

### 第4分科会 =早期発達支援領域=(S406 教室)

座長：真鍋健(千葉大学)・堂山亜希(目白大学)

- 4-1 『就学移行期の保護者の心配・悩みに関する調査』  
杉浦采夏(東京学芸大学大学院)
- 4-2 『早期支援における児童発達支援施設と関係機関との連携の実態』  
佐藤麗奈, 今枝史雄(東京学芸大学大学院)・菅野敦(東京学芸大学)
- 4-3 『アセスメントシートの作成』  
鈴木美代, 池沢美栄, 西谷聡子(三鷹市子ども発達支援センターくるみ幼稚園)・  
菅野敦(東京学芸大学)



- 4-4 『保育士に対する個別の指導計画に関わる実態調査』  
増澤貴宏(長野県稲荷山養護学校)
- 4-5 『「気になる」子が周囲の子どもに与える影響についての保育士の意識と支援行動に関する研究』  
齋藤厚子(東京福祉大学)
- 4-6 『統合保育環境で肢体不自由児に求められる支援』  
真鍋健(千葉大学)

## 第5分科会 =支援システム領域=(S403 教室)

座長：大伴潔(東京学芸大学)・平井威(明星大学)

- 5-1 『不適應の状態像からみる発達障害と不登校についての検討』  
久木田裕紀, 霜村麦, 柘千晶, 杉岡千宏, 菅野敦, 小林正幸, 大伴潔, 林安紀子,  
橋本創一, 池田一成, 小林巖(東京学芸大学)
- 5-2 『発達障害の可能性がある不登校傾向生徒の高等学校入学期の支援』  
村松勝信(秋田県立大館鳳鳴高等学校)
- 5-3 『中学・高校生の心理的問題に対する学校での取り組み実態調査』  
日下虎太郎, 山中小枝子(東京学芸大学大学院)・三浦巧也(東京農工大学)
- 5-4 『知的障害者のライフコースにおける経験理解に関する一考察』  
平井威(明星大学)
- 5-5 『遊びの指導において未経験者がもつ不安感の検討』  
菅原宏樹(千葉大学教育学部附属特別支援学校)・真鍋健(千葉大学)
- 5-6 『職場環境による若手教師の実践や精神健康への影響について』  
宮崎義成(東京都立府中けやきの森学園)
- 5-7 『保育者養成校における環境指導法』  
早川礎子(小田原短期大学)

## ポスター発表分科会 (S401 教室)

座長：三浦巧也(東京農工大学)・細川かおり(千葉大学)

- P-1 『得意を伸ばして苦手を克服するプログラミング学習』  
青嶋英樹(甲府市立善誘館小学校)
- P-2 『成人期重度知的障害者に対する他者への関心を向けるための逆模倣を用いたアプローチ』  
坂口麻衣子, 増田沙織, 矢部帆乃, 原田佑真(社会福祉法人 龍鳳)・  
伊藤浩(社会福祉法人 幸会)
- P-3 『障害児をもつ保護者－担任教師間の連携に関する調査』  
仲野菜(発達障害を考える会 ブルースター)
- P-4 『乳児の心を読み取る能力の個人差に関する予備的検討』  
原信田侑香(東京学芸大学大学院)・林安紀子(東京学芸大学)
- P-5 『高校生の学校生活における時間管理の実態』  
山中小枝子, 日下虎太郎(東京学芸大学大学院)・三浦巧也(東京農工大学)
- P-6 『成人期知的障害者が就職するために身に付けるべき職業態度について』  
橋本真緒, 伊藤浩(社会福祉法人 幸会)
- P-7 『役割を通して責任性を育てるための支援に関する検討』  
佐藤資子(社会福祉法人 武蔵野千川福祉会)
- P-8 『学びに向かう力を育てる授業づくり』  
栗本みゆき, 伊藤佳子, 吉池久, 茂木裕之(東京都立南大沢学園)・  
菅野敦(東京学芸大学)

## 2017年度 研究セミナー・研究大会

### 大会実行委員会

- 実行委員長 伊藤 浩 (社会福祉法人 幸会)
- 事務局長 今枝 史雄 (東京学芸大学)
- 実行委員 大伴 潔 (東京学芸大学)
- (五十音順) 尾高 邦生 (東京学芸大学附属特別支援学校)
- 菅野 敦 (東京学芸大学)
- 熊谷 亮 (福岡教育大学)
- 霜田 浩信 (群馬大学)
- 爲川 雄二 (東北大学)
- 堂山 亜希 (目白大学)
- 橋本 創一 (東京学芸大学)
- 林 安紀子 (東京学芸大学)
- 細川 かおり (千葉大学)
- 三浦 巧也 (東京農工大学)
- 
- 大会事務局 杉岡 千宏 (東京学芸大学)
- 栴 千晶 (東京学芸大学)
- 西村 裕子 (日本発達障害支援システム学会事務局)

---

<大会会場>

東京学芸大学 小金井キャンパス

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

<大会事務局>

日本発達障害支援システム学会

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1 (東京学芸大学教育実践研究支援センター内)

E-mail : [office@jasssdd.org](mailto:office@jasssdd.org)

Homepage : <http://www.jasssdd.org>